

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 大田市立静間小学校 ～

1. 概要

6月30日(金)、大田市立静間小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、学校のすぐ近くで工事の進む高速道路の場所は大きな館のある古墳時代の遺跡だったという説明を聞き、そこから出土した本物の土器に触れました。古墳時代の静間には港があって遠方からたくさんの人々がやってきたことを学習しました。

その後は、粘土を使って土器づくりに挑戦。思い通りならない粘土に悪戦苦闘。でも、次第に土器らしくなってきた、なんとか模様をつけて…。短い時間でしたが、当時の人々の考えや技術に思いを巡らせました。

2. 様子

1) 大田市

静間小学校周辺の遺跡について理解を深める。



「学校のすぐそばから、こんなにたくさん土器が出てくるなんて！」

2) 地元の古墳見学 ～ 八代穴観1号墳を探検～



土器づくりに挑戦！粘土を積んで形を作っていきます。



模様もつけて、土器らしくなってきた。「楽しいぞ！」

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・静間の周りにもたくさんの遺跡があって、たくさんの出土品があったことがわかり、心に残った。
- ・土器づくりが楽しかった。
- ・土器を作ってみてむずかしかった。
- ・縄文土器に色を付けてみたい。
- ・勾玉づくりなど、ほかの体験もしてみたい。
- ・野焼き体験をしてみたい。
- ・島根で発見された遺跡をもっと見てみたい。

2) 担任の先生から…

- ・自分たちの住んでいるところにも遺跡があり、そこからも土器が発見されたことを教えていただき、ふるさを見つめる良い機会となりました。
- ・道具を使って模様をつけるとき、どのようにつけたらよいか、例をやって見せてもらうとイメージがわかりやすかったと思います。最近の子供たちは作り方など動画があるとより理解できたかもしれません。

3) 埋文センターから

学校のすぐ近くに遺跡があり、実際にそこから出土した土器に触れてもらって、本物の迫力を感じてもらったことと思います。

土器づくりは、皆さん熱心に取り組みましたが、想像以上に悪戦苦闘の連続。思いがけず古代の人の苦労も感じたのではないのでしょうか。土器を作るには少し時間が足りなかったのが残念ですが、感想を聞くと、楽しんでいただけたようです。

今回は、身近な所から出土した本物に触れ、地域の歴史をより一層身近に感じる機会になったのではないのでしょうか。